

Apply for KCJS  
Summer Programs 2016  
(May 25 to July 22) by Feb 1st!



# KCJS ニュースレター



KYOTO CONSORTIUM  
FOR JAPANESE STUDIES  
京都アメリカ大学コンソーシアム

2015年度 秋学期 第9号



<http://www.kcjs.jp/>

## 大原学院

ジョーダン・ラボイント  
(ワシントン・アンド・リー大学)

毎週金曜日に電車とバスで大原学院に行きます。大原は少し遠いけど辺りは美しく静かです。そして、大原学院といういい学校もあります。私は大原で学生と一緒に昼ご飯を食べたり英語を教えたりします。学生は小学1年生から中学2年生までで、毎週違うクラスを教えます。卒業したらJETのプログラムをしたいからこのCIPはいい経験です。CIPでアメリカと日本の教育を比べると色々な違いがあります。例えば、日本では昼ごはんのあと学生が学校を掃除します。でもアメリカで学生は学校の掃除を全然しません。英語を教えるのは、初

めてだけこれまで大きな問題はありませぬ。先生も学生も英語の勉強に熱心だし、もう一人の英語の先生、森元先生はいつもよく助けてくださって、いい経験になっています。



## 善立寺保育園

デラ・ルース(ワシントン大学・セントルイス)



毎週木曜日、CIPで「善立寺保育園」という保育園でボランティアをしています。そこで子供たちと遊びます。子供は一歳から六歳だから、とってもかわいくて楽しいです。子供たちと保育士と私は一緒におもちゃで遊んだり、砂場で遊んだりします。遊んだ後で、一緒に片付けます。私は疲れている日でも、子供と遊ぶと幸せになります。子供たちは、いつも面白いことを話しています！子供たちから多くのことを学べるので、本当に素晴らしい経験です。

## 三味線

イザベル・マックファーソン  
(ノースウエスタン大学)



アメリカの大学で、音楽の教育を勉強しているから、CIPというプロジェクトについて聞いた時、すぐに日本の伝統的な楽器を習いたいと思った。大学三年生の春学期、東アジアのポップの音楽についての授業を取った。その授業で、「吉田兄弟」という三味線のデュオの音楽をはじめて聴いた。伝統的な楽器でロックの音楽を演奏するのは素晴らしいと思った。それで、三味線を習うことにした。

私は色々弦楽器を習ったことがあるが、三味線を習うのは特別なチャレンジだ。なぜなら、楽譜がバイオリンなどの楽器の楽譜と全然違うからだ。でも、私の先生はとても親切な方だから、どんどん習いやすくなった。先生によると、普通、伝統的な楽器の先生はとても厳しいそうだ。だが、先生ご自身が、厳しい先生の稽古からあまりよく習えなかったから、先生になった時、親切な先生になろうと考えたそうだ。それに、先生によると、音符の正しさより、曲の気持ちを表現する方がだいじなことだと考えていらっしゃる。これは音楽を演奏する上で、いい哲学だと思う。

## 京刺繍

カリン・ロリグ  
(アーモスト大学)



CIPとして刺繍授業に行っていました。服を縫ったり、編んだりしたことがあります。これまで 小学校の時にしたとても簡単なクロスステッチ以外に、ちゃんと刺繍をしたことはありませんでした。その上、刺繍についての単語(例えば、「針」や「はさみ」など)を知らなかったから、先生が言っていることを理解するのはちょっと難しかったです。でも、単語を学んだら、紅葉や桜や色々な伝統的な物の刺繍し方をよく説明してくれました。ベテランのクラスメートは私より上手だから、先生だけではなく、クラスメートも私を手伝ってくれました。皆のおかげで授業は楽しかったです。

### CIPとは

学生たちが、ボランティア等を通じて、日本の地域社会とつながりを持つプロジェクト。それぞれが興味を持っている活動を選んで参加する。

## アイリッシュダンス

ダーバス・オールドハム  
(スワスマア大学)



僕はCIPとしてアイリッシュダンスをしている。子供の時に始めて、京都でもしたかったから、ネットで調べて、クラスを見つけた。そこで8人で踊るセットダンスと

1人で踊る現代的なステップダンスの練習をしている。ケーリーという大きいダンスのイベントへも行った。約100人が東京や大阪などから来て、すごいバンドが音楽を演奏するのに合わせて踊った。

ダンスだからといって、仲間とそのことばかり話しているというわけではない。例えば、英語と日本語の方言や語順のようなことや日本の地方の名物について話すこともある。

ダンスは楽しいし、言葉の壁を超えることなので、いいCIPになったと思う。

## 個人プロジェクト

ニコール・ベルトツツィ  
(シカゴ大学)



今学期、Eクラスの個人プロジェクトで夏目漱石の「夢十夜」を翻訳しています。翻訳を進めるにつれ、日本文学や翻訳に対する意識が広がっていきました。一例としてすぐ思い出すのは第二夜に出てくる「無」の問題です。あるシーンで、仏教の悟りを目的にしている主人公が、趙州の有名な「無」について考えて静坐しようとしています。それを英訳しようと思った私は、「無」という言葉を見て困ってしまいました。なぜかという、「無」というのは仏教の様々な哲学が含まれている言葉で、同じニュアンスがある英語の言葉は全くないからです。しかし、この問題についてよく考えた末に、私は次の解決策に至りました。最初は「無」をそのままローマ字で書いて、その後似ている英語の言葉を二つ書いたのです。そうすることによって、「無」の日本語の意味を失わずに、日本語がわからない人にもわかるように伝えることができましたと思います。

このように翻訳の問題を通して、翻訳家が毎日直面する問題をもっと理解するようになりました。本当に達成感の高いプロジェクトです。

## 開晴中学校 英語ボランティア

エミリー・ロビンソン  
(ホバート・アンド・ウィリアムスミス大学)

毎年開晴中学校では、中学生が英語を練習するためのワークショップが行われています。今年も10月17日(土)に行われ、KCJSの数人の留学生も参加しました。私たちの役目はもちろん参加者ではなく、中学生の英語に関係する活動のお手伝いをするボランティアです。このプログラムの特徴は活動の内容で、中学生達は実際の外国人観光客にインタビューをするという形になっています。最初は、中学生達が6人ずつのグループに分かれ、私たちボランティアの一人はまずそのグループと一緒にインタビューをするための質問を考え、聴く練習もしました。その準備が終わったら、皆は歩ける距離にある観光客に人気があるスポットへ向かいました。私が一緒にいたグループは、最初はさすがに見ず知らずの外国人に話し掛ける時、とても緊張していました。しかし、最初のインタビューという難関を乗り越えたら、だんだん自信を持つようになって、上手く質問を聴けるようになりました。この成長を見た私は、改めて勉強している外国語を実際に使うことの大切さが分かりました。

## 岡山の旅行

アラン・アキノ(ペンシルバニア大学)

10月2日から4日まで、私たち、KCJSの学生は岡山県でホームステイをしてきました。私のホストファミリーは笠岡市の藤井さんで、6人家族でした。家族はお父さんとお母さんとお母さんのお母さん、つまり、お祖母さん、それに子供が3人です。

藤井さんの木造の家は二階建てで5年前に建てられました。私の部屋は一階で、畳や障子や床の間がある部屋、つまり、和室でした。

岡山での週末はとても楽しかったけど、お父さんはシャープで働いているから、シャープの大きいテレビがあったので、私は家族とテレビを見すぎてしまったと思います。皆は食べたり勉強したりしながらテレビを見ました。

でも私は旅行を本当に楽しみました。笠岡市はきれいだし、広大だし、いい所です。ホストファミリーの藤井さんの家族はとても親切です。私は、笠岡のような日本の伝統的な町を見たことがありませんでした。三日間だけでしたが、帰る時に私は悲しかったです。12月にクリスマスパーティーで笠岡へ帰りたいです。



## Modern Japan through Cinema (Professor Sarah Frederick, Boston University)

ユキ・イン(ボストン大学)

Professor Sarah Frederick's (Boston University) "Modern Japan through Cinema" is a course that presents different aspects of Japan via analyzing its films. We learn Japanese cinema from pre-war period to the bubble economy, which includes prostitution in various period, post-war propaganda, Yakuza, etc. In class, we mainly focus on the content of the movie along with its historical background. We also go to field trips to such places as the toy museum, the Kyoto art museum, and some old movie screening.

## 私のホストファミリー

エイデン・トーマス(ボストン大学)

私のホストファミリーは水島さんで三人家族です。お母さん、お父さん、そして、お姉さんです。お母さんの料理は本当においしいです！毎日一緒に晩御飯を食べる時、お母さんの料理が一番おいしいと感じます。お父さんはいつもみんなを笑わせてくれます。お姉さんは頭が良くて、勤勉な人で



です。ホストファミリーにすごく感謝しています。KCJSは私の外国での初めての経験ですから、とても緊張しました。最初は、私の日本語はちょっと悪かったです。でも今、少し上手になりました。ホストファミリーは私の日本語が上手になった理由の一つです。ホストファミリーはいろいろなことで私を助けてくれます。本当に感謝しています！

## ランゲージパートナー

ワチャボル・ソワパク  
(エモリー大学)



僕が初めてランゲージパートナーの雄太に会ったのはハートンホテルのロビーでした。それは僕の日本での初めての朝だったので、あまり話しをしませんでした。雄太は同志社大学のDESAというサークルに入っていたので、僕たち留学生をオリエンテーションに連れて行ってくれ、皆、雄太の友達になりました。ある日、先生が「ランゲージパートナー」ということについて教えてくださいました。それで、雄太の名前を見て、すぐに雄太を選びました。他の学生に「どうして知らない人を選ばなかったの？」と聞かれたけど、今の僕は雄太で本当によかったと思います。毎週一回僕たちは一緒に昼ご飯を食べて、色々なことについて喋ります。たいてい僕たちは食堂で食べますが、もっと面白いお店にも行くこともあります。例えば、アメリカらしい物が食べられるレストランに行ったりしましたが、すごく気に入りました。僕たちの話題は社会問題から楽しんでいるゲームの話にまで渡り、いつも面白いです。雄太のおかげで、日本文化と日本語についてたくさん学べました。アメリカに帰ってからも、友達でいられたらと願っています。

## 「月の桂」本音トークイベントの感想

チェルシー・林(タフツ大学)

先週の月曜日に参加した「月の桂」本音トークイベントはとてもいい経験でした。このイベントの前、このように社会人や日本の学生や他の留学生と一緒に面白い議論が出来る機会はありませんでした。



い議論が出来る機会はありませんでした。

私達は全員、これまでの人生でとても違う経験をしてきたので、このトークイベントで学んだことの一つは、育った国や年齢が人の物の見方に影響するという事です。

私のテーブルの話題は育児休暇についてでした。自分が育児休暇から職場に戻ってきたばかりで、周りの人が残業しなければいけない状況で、もし自分の子供が風邪を引いていたとしたらどうするかということについて話しました。私ともう一人の台湾出身の留学生と社会人二人は早く家に帰ると言いましたが、他の四人は我慢して残業すると言いました。ちょうど半分に意見が分かれたので、色々な意見が聞けました。その上、どうして一人一人がそう考えるようになったかだけでなく、自分の経験がどのように自分の意見に影響しているかについても話せました。社会人の方は自分の事務所では育児休暇に対してどんな空気があるかを説明してくださったし、私ともう一人の留学生は日本人の方に私達の国の文化も説明出来ました。

このような話し合いを通して学んだことのもう一つは、自分と違う人と話すことの大切さです。他の人が自分と違う意見を持っていても、その人の考え方や論理を理解することで自分の考え方も広がると思います。

このイベントを企画して下さった同志社の SIED に深く感謝します。

## 東山国際交流チームとのイベント



エンジェル・ムイ(コーネル大学)

11月15日(日)に東山国際交流チームとKCJSの学生代表が、KCJSの留学生たちのため鍋イベントを開催しました。最初に南禅寺の辺りを少し散策して、会場に行って鍋料理を作りました。トマトをはじめ、大根おろし、キムチ、ちゃんこ、塩など色々な味の鍋があり、本当においしかったです！鍋を満喫した後は、和室に移動して、書道や茶道を体験しました。それに、折り紙、あやとり、お手玉などの日本の伝統的な遊びもしました。本当に楽しかったです！

## KCJS-政策学部 アカデミック・スキル協働

デボトリ・チャタジー  
(コーネル大)



今学期 D クラスのみみんなは同志社の政策学部の一年生の学生と協働することになって、10月に私達は政策学部の授業に参加しました。その時、今学生達が読んでい

る「Tropical Gangsters」という英語の本が紹介されました。その後、政策学部の学生が3つのグループに分かれ、そのグループに私達が2人ずつ入って、「Tropical Gangsters」を読んだり、内容のまとめをしたりするのを手伝いました。その代わりに、政策学部の学生は私達の期末プロジェクトを手伝ってくれることになっています。

Dクラスのリーさんと私は同じグループで、政策学部のメンバーと一緒に会える時間を決めました。私達のグループは本のわかりにくい部分などを説明したり、主なポイントを理解することに2-3日かかりました。「Tropical Gangsters」はなかなか専門的な本でちょっと説明しにくいと思いました。リーさんと私はよくポイントの説明をする時すごく回りくどい説明になってしまったけれど、最後に何とか説明することができました！政策学部の学生が頑張ってるそんな難しい本を読めるのを見てすごく関心しました。もう一度協働するのを楽しみにしています！

おめでとうございます

### 就職・進学

ジェイソン・バックマンさん(KCJS 21 秋 ブラウン大)

University College London に留学中(比較文学の修士号取得のため)

ナターシャ・ガリンさん(KCJS 23 タフツ大)

日本語教師を目指し、2015年秋にSteinhardt School of Culture, Education, and Human Development, New York University に進学

ジェームズ・ヒルデブランドさん(KCJS 25 秋 アマースト大)

Amherst University フェローシップで同志社大に留学中

ハイディ・ラムさん(2013年サマープログラム上級コース、イェール大)

早稲田大に留学中(国際交流基金の奨学金。博士論文研究のため)

セシリア・ドルフさん(KCJS 23 ブランダイス大)

人類学の博士号取得を目指し、アメリカの大学院に進学予定

### 日本語能力試験1級合格

ブランドン・シムズさん(KCJS 23 ボストン大)

### JET プログラム

マイケル・リーさん(KCJS 24 ボストン大)東京都

ジェシカ・ローファーさん(KCJS 24 ミシガン大)奈良県

サラ・ロンタルさん(KCJS 24 ブランダイス大)徳島県

ホルヘ・ジョバンニさん(KCJS 24 秋 ボストン大)東京都

ブランドン・スウィニーさん(KCJS 24 秋 ボストン大)東京都

デントン・ウィリアムズさん(KCJS 25 秋 エモリー大)岐阜県関ケ原町